

第4番霊場

興福寺

「薬師信仰の伝統と祈りが脈々と息づく、藤原氏ゆかりの古刹」

古都奈良の中心に立ち、1300年以上の歴史を刻む興福寺は、藤原氏の氏寺として大変な栄華を極めた法相宗の大本山です。1998年には「古都奈良の文化財」としてユネスコ世界文化遺産に登録されました。



銅造薬師如来坐像と脇侍の日光・月光両菩薩像(東金堂内、重要文化財)

その起源は天智8年(669)、藤原鎌足公の病氣平癒を祈り、夫人の鏡王女(かがみのおおきみ)が釈迦三尊像を本尊として山背国(京都府)に創建した「山階寺(やましなでら)」に遡ります。その後、飛鳥へ都が戻った際に大和国高市郡厩坂の地に移されて「厩坂寺(うまさかでら)」と改称され、さらに平城遷都にともない和銅3年(710)、藤原不比等によって現在地に移され、「興福寺」と改められました。

境内には、神亀3年(726)に聖武天皇が叔母の元正太上天皇の病氣平癒と平穩を祈って建立した国宝「東金堂」が重厚な姿を留めています。堂内の中央には、西国四十九薬師霊場第4番の本尊である銅造薬師如来坐像(重文)が鎮座し、その周りを同じく重要文化財である銅造日光・月光菩薩立像や木造十二神将立像(国宝)、木造四天王立像(国宝)、木造文殊菩薩坐像(国宝)、維摩居士坐像(国宝)など、我が国の仏教彫刻を代表する名品が厳重に護っています。

また、2018年に再建落慶を迎えた興福寺伽藍の中心になる「中金堂」をはじめ、日本一美しい八角円堂と称される「北円堂」(国宝)、西国三十三所第9番札所である「南円堂」(重文)、そして古都奈良のシンボルであり木造塔として日本で2番目の高さ



東金堂と五重塔(共に国宝)

を誇る国宝「五重塔」など、数多くの建造物が悠久の歴史を物語っています。さらに「国宝館」には、三面六臂のしなやかなお姿で多くの人々を魅了する「阿修羅像(乾漆八部衆立像)」をはじめ、数々の国宝・重要文化財の至宝が収蔵されており、訪れる参拝者の心を静かに癒やしてくれます。

現在(2026年9月)、五重塔は明治以来約120年ぶりの大規模な保存修理が行われています。2034年完了予定で、周囲は素屋根で覆われ一部通行制限があります。参拝の際はご注意ください。

電子版瑠璃光では、工事中の国宝・五重塔の貴重な写真を特別掲載していますので、是非ご覧ください。
過去発行された瑠璃光もご覧いただけます。



行事、拝観時間・料金などの詳細は、興福寺のホームページでご確認ください。



法相宗大本山
興福寺

※各堂宇の単独拝観券もごさいます。
大人・大学生1,600円、高校・中学生1,100円、小学生600円
興福寺3カ所共通拝観券(中金堂・東金堂・国宝館)

【拝観料金】

ある場合があります

9時～17時(入堂16時45分まで)年中無休
※年中無休・堂内行事等により一部拝観制限がある場合があります

【拝観時間】

これらの伝統行事のほか、毎月の護摩焚きや季節ごとの法要など、1300年にわたリ継承されてきた祈りの風景が参拝者を温かく迎え、薬師如来の深い慈悲の心を伝えていきます。
これらに伝統行事のほか、毎月の護摩焚きや季節ごとの法要など、1300年にわたリ継承されてきた祈りの風景が参拝者を温かく迎え、薬師如来の深い慈悲の心を伝えていきます。
興福寺では年間を通じて、天下泰平や無病息災、身心安楽を祈る多彩な行事や法要が厳かに執り行われています。
2月には1年の魔除けと無病息災を願う「追儺会」が行われ、4月25日には知恵を司る文殊菩薩を讃えて学業成就や健康を祈る「文殊会」が境内を賑わせます。また春と秋には、運慶一門の傑作・木造弥勒如来坐像(国宝)、木造無著・世親立像(国宝)などを祀る日本屈指の八角円堂「北円堂」の特別開扉が行われます。
これらに伝統行事のほか、毎月の護摩焚きや季節ごとの法要など、1300年にわたリ継承されてきた祈りの風景が参拝者を温かく迎え、薬師如来の深い慈悲の心を伝えていきます。